

☆練馬区長賞

『税金がつくる居場所』

練馬区立石神井西中学校

三学年 渡邊 凜音

夏休み、図書館にいと多くの学生がやってくるのをよく見かける。私たち小中学生は読書感想文が課題として出されるからだろう。かくいう私もそのために久々に図書館へ足を運んでいた。コロナが流行ってからというもの、めっきり図書館へ行くことが少なくなっ

ると、東京都だと町村部で平均二千九百万円、市部で平均三億九千万円、区部で平均十三億円、と大きく差はあれど毎年莫大な税金が使われていることが分かった。私たちの納めている税金が、私の好きな図書館へ使われていることを再確認できて、少し安心した気持ちになった。

図書館は誰でも、いつでも、知識を求める人には平等に与えてくれる。たとえ大人が図書館から離れても、子供にとっては知的好奇心を満たす源であることに変わりはない。つまり、税金は私たちの知識の源をつくっているのだ。

でも冬でも外で遊び回る体力を持ち合わせていなかったの、代わりに図書館という快適な空間で知識を蓄えていたものだ。また、館内の学習室を借りて友達と勉強していたこともあった。小学生のおこづかいでは買えない本も無料で借りることができ、取り寄せすることもしてくれる。そんな図書館は私の大事な居場所だった。

しかし、電子書籍が普及している昨今、特に「図書館は税金の無駄」との意見が増えていくと聞く。確かに、電子書籍を購入すればいつでもどこでも本が読めるし、デバイスの検索エンジンを使えば調べもののために図書館で本を探する必要さえないとも言える。技術の進歩とともに、図書館から人が遠ざかっていくのはしかたのないことかもしれない。それでも図書館がなくならないのは、私たち子供や学生にとって図書館が大切な場所だからだ。幼児に読書のおもしろさを伝えるのも、金欠な学生が読みたい本を無料で読めるのも図書館だからこそできることだ。それに、一

また、近年いくつかの図書館では所蔵している本をインターネット上でも読めるようにする、電子図書館をつくる取り組みが増えている。少しでも多くの人が気軽に図書館を利用できるようにと、施設側も努力しているということだ。それに、図書館でできることは本を読むことだけじゃない。司書さんに本について聞いたり、学習室で勉強したりできる。きっと、人それぞれ図書館との接し方があると思う。どうか今一度、自分たちの税金でつくられたものとの向き合い方を探してみしてほしい。

図書館含む公共施設の多くは無料で使うことができる。それはひとえに税金のおかげなのだ。建物や机などの設備から、司書さんたち働く人の給料まで全てが税金でまかなわれている。もちろん本やCDも税金で買われている。二〇二一年度の図書館予算を調べてみ

ている。二〇二一年度の図書館予算を調べてみ